

フローリングは、再生産の可能な地球にやさしい天然資源である木材を主体として作られた建築材料であり、木材の持つ良い性質を大切に加工してあります。従ってフローリングには種類があり、根太張用と直張用とに区分されていて、塗装品と無塗装品とがあります。

#### フローリング張り工法

フローリングの種類や下地等の条件により、湿式工法（モルタル埋込み工法）と乾式工法（釘留工法、接着剤・釘留併用工法、接着工法等）があります。

釘及び接着剤は次のものを使用して下さい。

釘 フローリング用スクリュー釘、フローリング用コート釘とし、張込むフローリングの厚さの2.5倍程度の長さのもの又はメーカーの仕様によります。

接着剤 酢酸ビニール系エマルジョン、エポキシ樹脂系接着剤又はウレタン樹脂系接着剤等であって、フローリングの用途、種類に見合う接着剤を使用して下さい。

#### 湿式モルタル埋込み工法

{フローリングブロック}

足金具付フローリングブロックを、コンクリートスラブ下地上に砂、セメントを練り合わせたモルタルを敷き込み、埋込む工法です。

釘留工法及び接着剤・釘留併用工法（ノリ・クギ併用工法）

{エムエスコートフローリング、フィンガージョイントフローリング、ピュアウッド、サンドライウッド}

フローリングを釘で固定して張込む工法が釘留工法であり、釘と接着剤を用いて張り込む工法が接着剤・釘留併用工法です。

A. 根太張用フローリングは次の下地に張込んで下さい。

イ. 根太組下地か乾式二重床下地に張込んで下さい。但し鋼製下地等には捨張で釘留可能にして張込んで下さい。

ロ. 直張下地の上に張込む場合は、捨張り等にて釘留可能にして張込んで下さい。

ハ. 接着剤・釘留併用工法は釘留と接着剤塗布ともに可能な下地面に張込んで下さい。

B. 直張用フローリングはこの工法に使用しないで下さい。

接着工法

{エムエスコートフローリング、エムエスパーケット、フィンガージョイントフローリング、ピュアウッド、サンドライウッド、シャンティウッド}

フローリングを接着剤で固定して張込む工法です。

- A. 直張用フローリングは次の下地に張込んで下さい。
  - イ. 直張下地に張込んで下さい。
  - ロ. 根太組下地や乾式二重床下地の上に張込む場合は、曲げ強度を捨張りで補ってから張込んで下さい。
- B. 緩衝材付き直張用フローリングは下地になじむように作られています。重量物を置く部屋への張込みはさけて下さい。
- C. 根太用フローリングは釘留用ですので、使用しないで下さい。使用する場合にはあらかじめメーカー又は専門家に相談して下さい。

#### その他工法

脳天ダボ打工法（フローリングボード特殊張工法）

{ 体育館専用特殊フローリング }

フローリング表面より釘又はビスにて下地に留付ける工法で、主に体育館などの過激な動きのある床に用いられます。

## 施工上のご注意

### 保管方法

- A. 直射日光はさけて下さい。変色や形状変化することがあります。
- B. 雨にあたらぬ室内で高温、多湿、風をさけて保管して下さい。
- C. 下地からの防湿処置をして保管して下さい。

### 土間への張込み禁止

床下に防湿がされていない所（土間）にはフローリングを張込まないで下さい。

### 床下の換気口の設置

根太組下地及び乾式二重床下地には十分な換気口を設置して下さい。

### 下地の確認

下地について平滑性、強度及び湿気を検証して下さい。

- A. 平滑性が不十分であるとフローリング間の段差、隙間、剥離、床鳴り等が発生します。
- B. 強度、堅さが不十分であると、床鳴り、フローリングの割れ、浮き等が発生します。
- C. 湿気が多いと反り、アバレ、ハクリ、クイが発生します。

### 張込み前の色調合せ

フローリングは天然木を使用しているため、1枚1枚の色調が違います。施工前に仮並べして色のバランスを確認して下さい。

### 張込み時の配慮

フローリングは水分の吸放出性があり、含水率の変化で、膨張収縮します。シメ張りをしないで下さい。又は接着剤等を用い、膨張収縮に対応するように張込んで下さい。

### エキスパンションの設置

- A. フローリングの膨張収縮に対応するため、壁際、敷居際、巾木際には適宜な空隙（エキスパンション）を設けて下さい。
- B. 使用するフローリングの種類、材質、樹種、構成等により膨張収縮が異なりますので、それに対応するエキスパンションを設けて下さい。

### フローリングの仕上げ

無塗装フローリング等を使用した場合には用途によって、仕上げ工事をして下さい。

#### A. 研磨

面取りのない無塗装フローリングを使用したら、研磨を行って下さい。

面取りがあっても張込み完了後下地作りのため、スコアリング研磨を行う場合があります。

#### B. 塗装

床塗装はポリウレタン樹脂（1液性、湿気硬化型、2液性）アルミアルキッド樹脂、オイルステン（着色）、フローアールオイル等があり、使用用途に応じて選んで塗装して下さい。なお用途によっては、無塗装のまま使用することがあります。

C. ワックス仕上げ

ワックスの種類には油性タイプと水性タイプがあります。フローリングには油性タイプを使用して下さい。

D. 法令等の遵守

建築基準法、消防法、労働安全衛生法等を遵守して、事故のないように工事を行って下さい。

E. 水洗いの禁止

床張り完了後、水洗い、水拭き清掃は絶対にしないで下さい。

## 養生のご注意

フローリングの張込みが完了したら、床面清掃を行い、フローリングのキズ、付着物の汚れのない事を確認して養生を行って下さい。

養生はキズ、汚れ、シミ、ハクリ、ク洛伊を防ぎ雨や直射日光がかからないようにして下さい。

養生をするときに養生材の隙間から、砂・水・汚れ等が進入しないように、又養生材が移動しないように行って下さい。

養生材の上であっても、土足は禁止して下さい。

養生材等を押えるのに用いるテープ等の仮留材は撤去時にフローリングの表面にキズが付かないようにして下さい。

養生材を撤去する時は、養生材の上を清掃し、撤去する養生材で床面にキズが付かないようにして下さい。

養生材の撤去後すみやかに清掃を行って下さい。キズ、汚れ、シミ、ハクリ、ク洛伊のないことを確認して下さい。

キズ、シミ、ハクリ、ク洛伊等の顕著な問題が発生した時には、床の施工業者又は、専門家に相談して下さい。

## 安全上のご注意

フローリングの搬入時又は作業中に資材の落下やずり落ちによる怪我を防ぎ、腰等を痛めないように注意して下さい。

搬入時又は作業中、素手による作業又は素肌の露出部は怪我をするおそれがあります。注意して下さい。

塗料、接着剤等には有機溶剤の危険物が含まれてる物があります。これらの保管場所や使用中に火気や高温物質を近づけると発火して火災や火傷をすることがあります。又作業中に十分な換気をしないと呼吸困難になったり、吐き気を生じたりカブレたりすることがあります。十分に注意して下さい。

塗装の際ムラ取り等にて発生した研磨クズの中には、まとめて置くと、自然発火をして火災や火傷をすることがあります。十分に水に浸すか可燃物の無い場所に廃棄して下さい。

フローリング張りの床で、生活中にフローリングが、ハクリ、ササクレ、割れ等が生ずると怪我の原因となるので、注意して下さい。速やかに修理して下さい。

ワックスの塗りすぎや、塗布直後は滑ることがあります。転倒に注意して下さい。水こぼしが有ると滑って転倒することがあります。注意して下さい。

## 床暖房フローリング使用のご注意

モルタル埋設式床暖房下地の場合、施工 4 ~ 5 日前に熱を通し、モルタルの割れを確認するまで十分乾燥させて下さい。

パネル式床暖房の場合、段差等が無く、パネル全面に接着剤を塗布できる事をご確認下さい。

床暖房パネルの表面に荷重をかけた際、しずみ込みが無い事をご確認下さい。万一表面硬度が不足している場合は床鳴りなどの原因となります。

小根太タイプの場合は、厚さ 12 mm 以上のタイプ 合板を接着剤(耐熱性ウレタン系接着剤)とスクリー釘又はビスを併用して、捨て張りをして下さい。

フローリングの施工前に床暖房の試運転を行って下さい。